

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上	写真・後藤
山行NO	1974	
日時	2022年3月5日(土) 晴れのち曇り・暴風(黄砂あり)	
山域	八ヶ岳・西天狗岳(2646m) 西尾根	
コース	長泉 5:00-唐沢鉱泉駐車場スタート 8:24-第二展望台の下 11:26-西天狗岳頂 11:56-2328m で昼食 12:50~13:11-唐沢鉱泉駐車場 14:05-長泉着 17:30-反省会	
累計標高差	唐沢鉱泉 1865m~西天狗岳 2646m+第2展望台からの下り 40m=821m	
藪漕度	なし	
難易度	非常に困難   困難   レやや困難   普通   やや易しい   易しい	
<h2>凶暴な風に翻弄される</h2>		
参加者	後藤、遠藤(沼津労山)、井上=3名	
ど〜が〜	<a href="http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-14.mp4">http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-14.mp4</a>	

当初は西岳～編笠岳の周回コースが計画されていたが、天気が良いのでいい山に行こうということで、天狗岳となった。

唐沢鉱泉までの林道が除雪されているかが心配されたが、電話で確認したら2週間前に除雪はしたが、道幅は狭く、それ以降の積雪はわからないという。スマホで探したら3月3日に通過できたという情報が手に入り安心して向かった。確かに除雪はされているが、その幅は狭く対向車がいてもすれ違いはできない。慎重に運転するも意図しないところでハンドルを取られて、横の雪に突っ込んだ。



唐沢鉱泉

唐沢鉱泉の駐車場は数台(3台くらい?) 停まっていたと思う。初めからアイゼンをつけて出発。つづら折りで登り、西尾根に出るとあとは尾根沿いに進むだけだ。踏みあとを外さない限りよく踏まれていて歩きやすい。第1展望台にきて、遠藤さんの荷物が重そうなので、水筒2本とピッケルを受け取った。これで12kgだろうか。

今日は、帰りの運転手の予定なのでビールが入っておらず荷物が軽かった。これで少しは訓練に

なる。同じように登っていったが、預かったピッケルがちゃんとザックについているか妙に気になり、見てみたらやっぱり落としていた。バラクラバとニット帽をかぶっているので音が良く聞こえないので、落としてもわからなかった。落としたことに気が付いて、戻って探すと言ったが、ピストンで同じ道来るので良いということになった。



西天狗岳・西尾根（人物＝井上・遠藤）

遠藤さんが眠いと言う。標高 2500m を超えているので高度障害が起きているのだと思ったが、聞くと、集合時間を 1 時間早く勘違いして、朝 2 時半に起きたとのこと。さらに、あとで聞いたのだが、買ったばかりのチェーンアイゼンを着ける練習をして、寝たのが 12 時だったとのこと。

なんと睡眠時間 2.5 時間。そりゃ眠いし、体調もすぐれないでしょう。と、いうことで調子がでず、登頂はあきらめ、行けるところまで行ったら後藤さんと下ることになった。

第 2 展望台から 40m 下ったところで 2 人と別れ、そこからは一人で頂上を目指すことになった。風が強くなり、雪煙が舞い上がっている。2 人の若い男性が少し先に行っている。この二人につられて左の方の足跡をなぞってしまった。

後でわかったのだが、右の方にちゃんと丸印が書かれて十分に踏まれたコースがあった。その 2 人組をさっと抜いていったが、ほとんど足跡がなく、どっちに行っているのかわからなくなる。足跡が完全になくなるとラッセルをした。

横殴りの風は強くなる一方で、氷雪のつぶてが顔の右側にぶつかり痛いので、右手でゴーグルから出てる顔をカバーして風をさえぎる。風がどんどん強くなり、足跡もなく、ここまでダブルスト

ックで元気よく登ってきたが、命の危険を感じ、これ以上はストックでは体を支える自信がなくなった。



上部岩稜帯

風をよける場所はないが急いでザックを下ろし、ストックをザックにしまい、ピッケルを装着した。重いピッケルが安心感を与える。踏まれていない新雪にピッケルは根元まで刺さり、そのため姿勢が低くなり風に耐えられる。ストックではもっている位置も高いし雪に刺さらないので体の重心が高いままになり、思わぬ強風が吹いたら立っている自信がない。

風があまりに強い時は移動できないので、ピッケルを深く雪に刺し腹の下にして低い姿勢を取り風が弱まるのを待つ。風がおさまることはなさそうなので、感覚で少しでも弱まったと思ったら動き出す。強くなると止まってやり過ごす。それにしてもピッケルの安心感たるや。そして、なんとという冒険をしているのだろうという充実感。一人でいる不安と緊張感。

やがて傾斜が緩くなり頂上に出た。一応、頂上の標識の証拠写真と赤岳の写真と頂上での360度の動画を撮った。後で見たが、自分で思ったほど風雪の強さが表れていなくてがっかりだった。

誰もいないし、早く分かれた2人に追い付きたいのでさっさと下り始めた。見れば、きちんと道があるではないか。「なあーんだ」と思い、ひょいひょいと気楽に下っていった。

上りの苦労はなんだったんだろう。樹林帯に入っても風が強いままで、風雪で足跡が消されていく。時々、間違った方向に行き、ずっぽりと雪に沈む。

腰まであるので、一度入ると簡単に抜けない。道を間違えたことに気が付くと、赤テープのある



下山・第一高点付近

ところに戻り、足跡が消えた道の先を探す。なかなか2人に追い付かない。

12:39 によやく追いついた。登頂が11:56なのでそこから40分近く一人で下っていたことになる。遠藤さんのピッケルは途中ですれ違った男女2人組が拾ってくれ、途中まで運んでくれたらしい。

風のない平らなところで昼ご飯にしようということになったが、いつまでたっても平らな場所がないのであきらめて斜面に腰かけて休むことになった。気温が低いのか、持ってきた魔法瓶のお湯がぬるくなっており、カップ麺はバリカタだった。

20分くらいで休憩を終え、下山再開。木の枝に残った1mくらいの大きさの雪の塊が、音もなく急に落ちてくる。真上から落ちてきたらかなりダメージがありそうだ。最近、ロシアがウクライナに空爆をしているニュースが続き、今日は雪の空爆だなどと言っていた。

唐沢鉱泉に戻ってくると、若い男女3人グループが片づけをしていた。聞くと西天狗から東天狗に行き周回してきたらしい。出発は私たちより1時間半早い7時だとのことで、まだ風が強くなかったのかもしれない。

復路は自分が運転し長泉に18時前に到着し、遠藤さんと別れ、後藤さんと私は「満貫」で反省会をきっちりやった。ここで会員のKさんに会った。今回不参加理由は、バイクで腕を痛めたからと分かった。本日のお勤めが終了したが、のん兵衛の悪癖で更に後藤さん宅で「アルコール増量」してしまった。最後の最後まで充実した一日だった。

以上



第一高点



樹氷とツララ



昼食



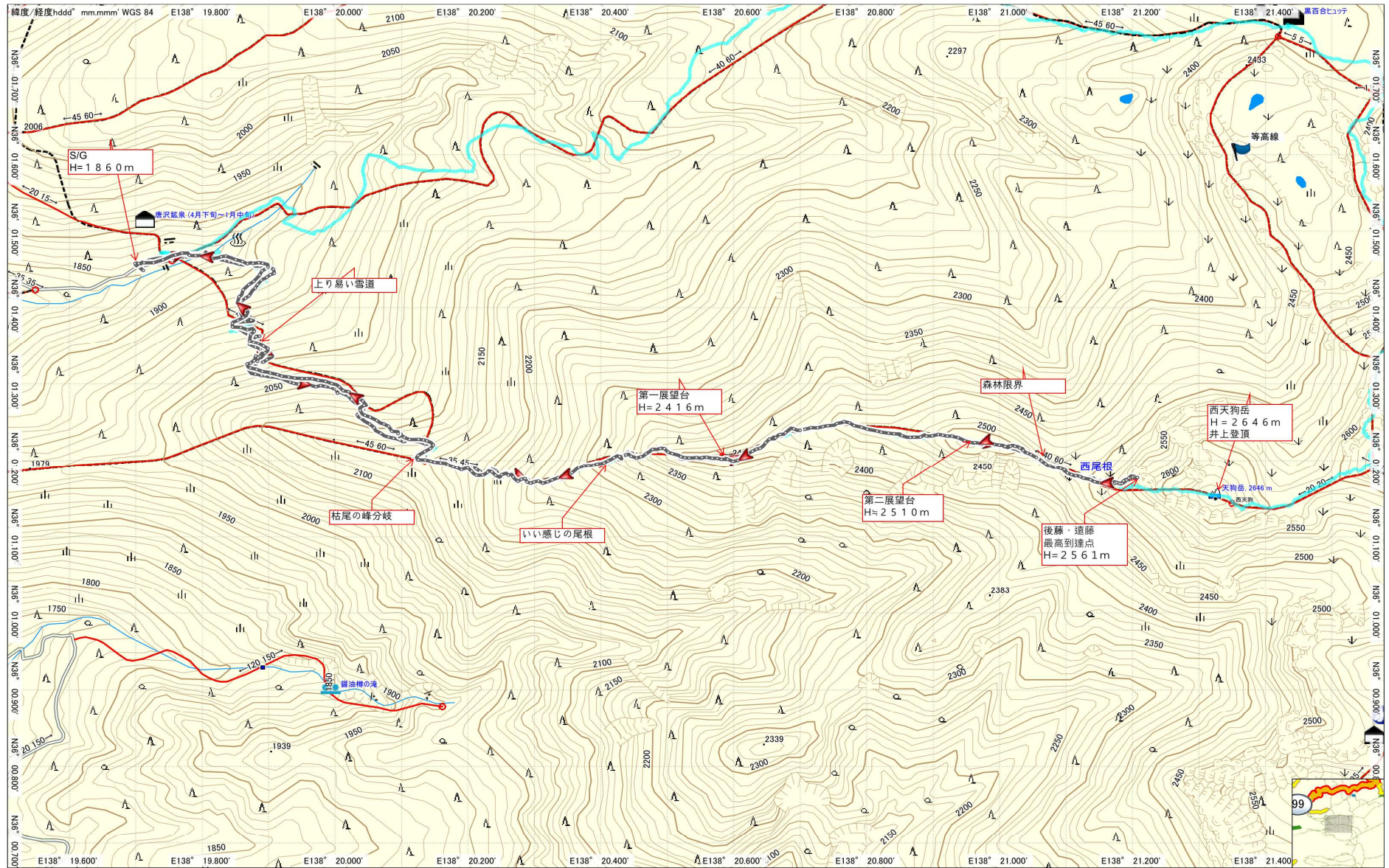
屋根の雪庇



帰着

#### その他の記述（後藤）

1. 遠藤さんは初めての本格的雪山だった。ズボンヤッケ・ゴーグル・目出帽・オーバー手袋などの装備は今後用意しましょう。
2. 早朝の八ヶ岳登山は厳しい。何年経験しても慣れないが、体調管理は十分にしたい。
3. ピッケル紛失は、着替え再登時、取り付けが悪かったようだ。途中撤退だったが、仮に登頂の場合、ピッケルが無いはずだった。回収に行くべきだった。
4. GPSは標高2561mで撤退。山頂まであと「85m」だった。残念。捲土重来です。
5. 唐沢鉱泉の屋根の雪庇が凄かった。



Japan Topo 10M Plus V3  
Cenex/MapInfo Co., Ltd. 2014  
Garmin Corporation 1999-2014

2022/03/06 11:33:27